

播磨灘



播磨灘に沈む夕陽

竜山石

高砂市で採れる竜山石は由緒ある石材です。世界文化遺産に指定された姫路城の石垣や、天皇一族及び古代豪族などの古墳の石棺には多くの竜山石が使われています。

江戸時代には姫路藩の専売品として鳥居・石垣・石段・護岸などが広く利用され、その後も美しく優れた建築資材として盛んに活用されました。

高砂市内にある生石神社のご神体は、「石の宝殿」として知られる竜山石の石造物です。石の宝殿は、日本の三奇のひとつとして数えられる謎の多い石で、いつ、誰が、何の目的のために造られたものなのか、いまだにわかっていません。

あらい浜風公園のエントランスには、帆掛け舟の形をした竜山石のモニュメントがあります。



風光

播磨灘に面する、あらい浜風公園では、風の方や光の力を利用してクリーンなエネルギーを生み出し、利用しています。風の方で電気をくみ上げる「発電風車」。風の方で地下水をくみ上げる「揚水風車」。光の方で電気をくみ上げる「ソーラーパネル」。高砂は、風の方ではしる帆船につかわれる帆布発祥の地です。それにちなんで、揚水風車の羽根は帆布の材質を使用しています。



あらい浜風公園誕生の軌跡



「白松園」で名高かった海岸線（昭和35年頃）



高松成造設計の図の立て（昭和44年頃）

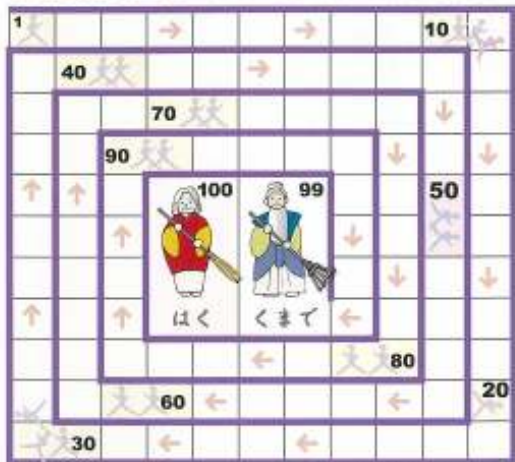
高砂の浜は、白松青松で名高い風光明媚な場所として全国に名を馳せていましたが、戦時下の埋め立てにより、浜は失われ、海辺は市民にとって遠い存在になってしまいました。あらい浜風公園は、市民からの強い要望を受け、公園に賛同する企業（神戸戸製鋼所高砂製作所と三登重工業高砂製作所）からの寄附協力を得て、海辺で憩い遊べる空間をあらたに創り出したものです。



浜風ウォーキング

浜風ウォークは往復で1.6km
1往復で約80kcal消費できます

おじいさんが熊手を、おばあさんが帯を持った「尉と姥」の高砂人形は、「おまえ百（掃く）まで、わしゃ九十九まで（熊手）」というように、長寿夫婦の象徴として知られています。毎日のウォーキングは健康の秘訣。浜風ウォーク100往復にチャレンジしてみよう！



✓1往復するたびにチェックしてみよう！

●所在地●
兵庫県高砂市荒井町
新浜2丁目

●アクセス●
電車：山陽東線 荒井駅より徒歩20分
車：5号線沿線1番線250号
高砂西交差点より
徒歩10分
自転車道5.5分あり

●開園時間●
4月～11月（夏季）
6:00～20:00
12月～3月（冬季）
7:00～18:00

●お問い合わせ●
兵庫県 東播磨保健局
高砂土木事務所
TEL:079-421-1101(代)

高砂市 まちづくり部
都市計画課
TEL:079-443-9039

あらい浜風公園案内所
TEL:079-443-3319

公園面積 2.7ha
〒674-0044

あらい浜風公園

ARAI HAMAKAZE PARK



松

高砂は松で有名なところで、夫婦和合の象徴とされる、高砂神社の「相生の松」や荒井神社の「結びの松」、菅原道真公のお手籠えと言われる曾根天満宮の「曾根の松」などがあり、松は高砂市の木に選ばれています。あらい浜風公園の松は、この公園ができる前から植えられていたもので、幹の姿から、風の強さが感じられます。



尉と姥

「尉と姥」と書いて、「じょうとんば」と言います。イザナギ・イザナミの2神が尉（おじいさん）と姥（おばあさん）の姿になって、相生の松の前で夫婦のあり方を誓ったという高砂の言い伝えにちなんで池の名前をつけています。



ヤマモモ

ヤマモモは、近くに産地が限られると実を結ぶことができないため、ハイダル都市高砂を象徴する木と言えます。海浜でも育つ強い木で生命力にあふれていることから高砂みなとまちづくり構想のシンボルとなっています。

<高砂みなとまちづくり構想>
高砂市臨海部の活性化を目的に、兵庫県と高砂市が協定。国庁



